

# まとめ

## 【懇談・情報交換の場で察知する保護者の感情】

例えば、母親の言葉や態度から

- (1) 母親に虐待を受けた生育歴がある。  
(夫からDVを受けている場合もある)  
(夫の育児放棄、経済能力の欠如、家庭不和、等)
- (2) 友人や親戚がいない。孤立した生活を送っている。
- (3) 子どもに対する忌避感情が強い。
- (4) 子どもに過度に依存心を抱いている。

そんな内容を匂わせたり、相談したりした時は  
すでに「SOSを発している」と考えることが大切。

## 幕高新聞

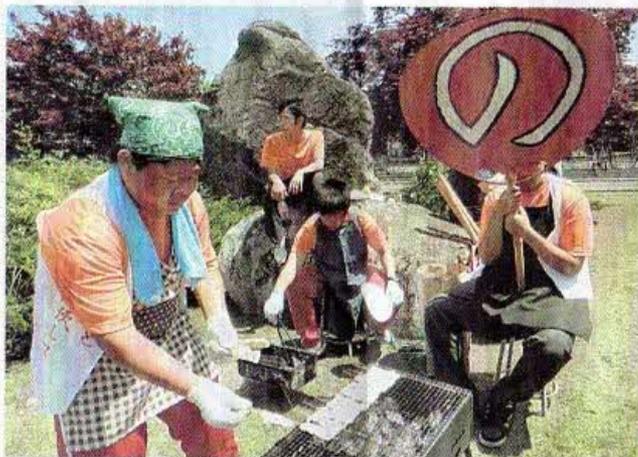
題字  
折笠亜由美

# 新しく変わっていく幕高

7月13、14日の両日、「ほくらは歩く！」をテーマに第51回六華祭が開催された。今年の六華祭は中札内高等養護学校幕別分校との合同で行われた。また、学校祭と体育祭の二大行事を2日間で行うという新しい試みでの実施だった。

## 達成感あふれる六華祭

1日目の学校祭では有志企画(合唱や軽音楽部によるバンド演奏、スケートボードのパフォーマンス)、男装女装コンテスト、模擬店、パフォーマンスが行われた。例年と同じく各クラスで仕上げた垂れ幕が屋上から下がる。



3年生による模擬店でのやきとり販売

年からは、今から来年に向けての意気込みが聞こえる。

男装女装コンテストでは、各クラスが代表者を2名ずつ選出し、どの代表者もクオリティが高く、独創的な衣装で観客を圧倒した。負けず劣らずの男装女装コンテストで大いに盛り上がった。模擬店では、例年より多くの来校者が訪れたため、どの売り場でも盛況であった。特に注目すべき点は飾り付け・接客部門で初参加の中札内高等養護学校幕別分校が見事に1位を獲得した。丁寧で敬意がこもった接客で来て頂いた方々を満足させ、表彰では幕別高校生徒からも惜しめない拍手がおくられた。

紅白対抗での綱引き

今年の実施であったが、大きな達成感と成長、そして喜びを得て笑いあり、涙ありの大成功を取めた。

## 初の紅白チーム 体育祭で編成

2日目に行われた体育祭では初の学年縦割りの2チーム(紅白)を編成し、今までにないチームでの体育祭が行われた。種目はグラウンドフラッグ、タイヤ取り、二人三脚、綱引き、紅白対抗リレーが行われ、恒例の二大行事続きであったが生徒たちは疲れた顔も見せず、前向きに取り組む姿が見られた。

各チームとも接戦で競技が行われ、体育祭も大いに盛り上がった。午前中に全

## 3年連続 進路決定100%へ

幕別高校では一昨年から普通科高校では異例の5日

らは1年生が1日、保育実習を実施している。3年間合わせて8日間の実習体験があり、進路に向けて自分と向き合う時間が増え、さらなる意識が高められてき

今年6月24日から5日間、地元の元幕別町や帯広市内にある介護施設、病院、ホテル、プ

十勝毎日新聞～幕高生が書いた記事が掲載



# 前回話題提供の後書き

## 道内初!!同じ校舎内に併設!特別支援学校

幕別高校の校舎内に、中札内高等養護学校幕別分校がこの4月に開校した。同じ校舎内における設置ということでこれまでにない位置づけで、両校の連携のあり方、生徒間交流の可能性が期待できる。

前生徒会長の木村透君は「どういふ感じで進めたらいいのか、生徒会としても意見を出し合っています」と言う通り、「対面式」や「合同での行事(スポーツ大会、学校祭、体育祭など)」も生徒会の主催で実現した。そのほかにも、着こなしセミナー、パークゴルフ授業、

健康安全指導などの学年合同での学習や避難訓練、交通安全教室など学校全体での合同学習が行われてきている。

今回の新聞作成にあたり、分校授業の取材を行った。取材当日は2週間の日程で実施された「現場実習」の報告会が行われており、パワーポイントを使い、個人の目標や現場での仕事内容を発表していた。皆、体験での経験をこれからの生活態度につなげていた。また、普段の授業では作業学習が行われている。毎週木曜日には、ペットボト



ペットボトルリサイクル作業について説明を受けている様子

それを踏まえ7月24日に行われたインターンシップ報告会ではインターンシップを受け入れてくれた企業や施設の方々にお越しいたごき、生徒からの報告を聞いていただいた。進路指導部長の菊地信一先生からは今年の3年生の進路状況について「就職希望28人、進学希望20人のうち、就職は11月14日現在24人の内定(86%)を頂きました。年内にも100%決まってしまうような勢いです。進学はこれからですが、絶対決めて卒業が幕別高校の進路目標です」と話してくれました。

### 編集後記

今回は3年に1度の幕別高校の新聞制作ということで、旧生徒会執行部と現生徒会執行部のメンバーで、新聞作成チームを編成し編集に携わりました。幕別高校の校舎の中に特別支援学校が併設され、変化のあった年にもこのように新聞で幕別高校について書くことができるとてもいい機会であったと思います。より多くの方々に読んでいただけると幸いです。今後は、新しく変わってきた幕別高校が評価され、生徒数が増え、活気あふれる学校になることを期待したいです。

後列左から、大塚陽和、北詩央音、有岡映美、瀧崎音、天内奏、林明日香(以上1年生)。前列左から、鍋田亮介、三井朋美、折笠亜由美(以上3年生)



### 幕別高校

- ▽住所=幕別町南町81ノ1
- ▽電話=0155・54・2977、ファクス=0155・54・2159
- ▽学校ホームページ=http://www.makubetsu.hokkaido-c.ed.jp/

校も協力し、連携を取っている。回収されたペットボトルは実習の中で分別れ、チップへと加工される。チップは工場に運ばれ、いぐるみやTシャツ作り使われることになる。他にもストローの燃料とるペレット作りをして、これから工業用の袋縫う作業も入ってくるのだ。こうした学習への生徒の真剣な取り組みや勢は幕別高校生徒への刺にもなる。

生徒同士の交流などをし、お互いにとのようなラスの影響を与え合っことができるか、今後の取り組みが楽しみである。

NIE 教育に新聞を

# 前回話題提供の後書き



(上)茅ヶ崎高校  
(下)リソースルーム

時事通信社「内外教育」  
2019年10月25日号より

## 神奈川県立茅ヶ崎高校

- ①神奈川県内の3校が「インクルーシブ教育実践推進校」に指定。
- ②茅ヶ崎高校 1学年280人程（7学級）
- ③特別募集 定員1学年21名  
平成29年4月に第1期生が入学。  
入選 面接あり、学力テストなし
- ④条件  
知的障害 療育手帳不問（中学校推薦あり）
  - ・学級集団での学習及び生活が可能な生徒
  - ・医療的配慮を必要としない生徒
  - ・公共交通機関等で自力通学が可能な生徒
  - ・将来の自立に向けて学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒、他
- ⑤1学級40名の中で共に学習する。  
卒業できれば、短大、大学への進学が可能。

※資料参照

# 前回話題提供の後書き

## ■「インクルーシブ教育システム」(障害者権利条約第24条)

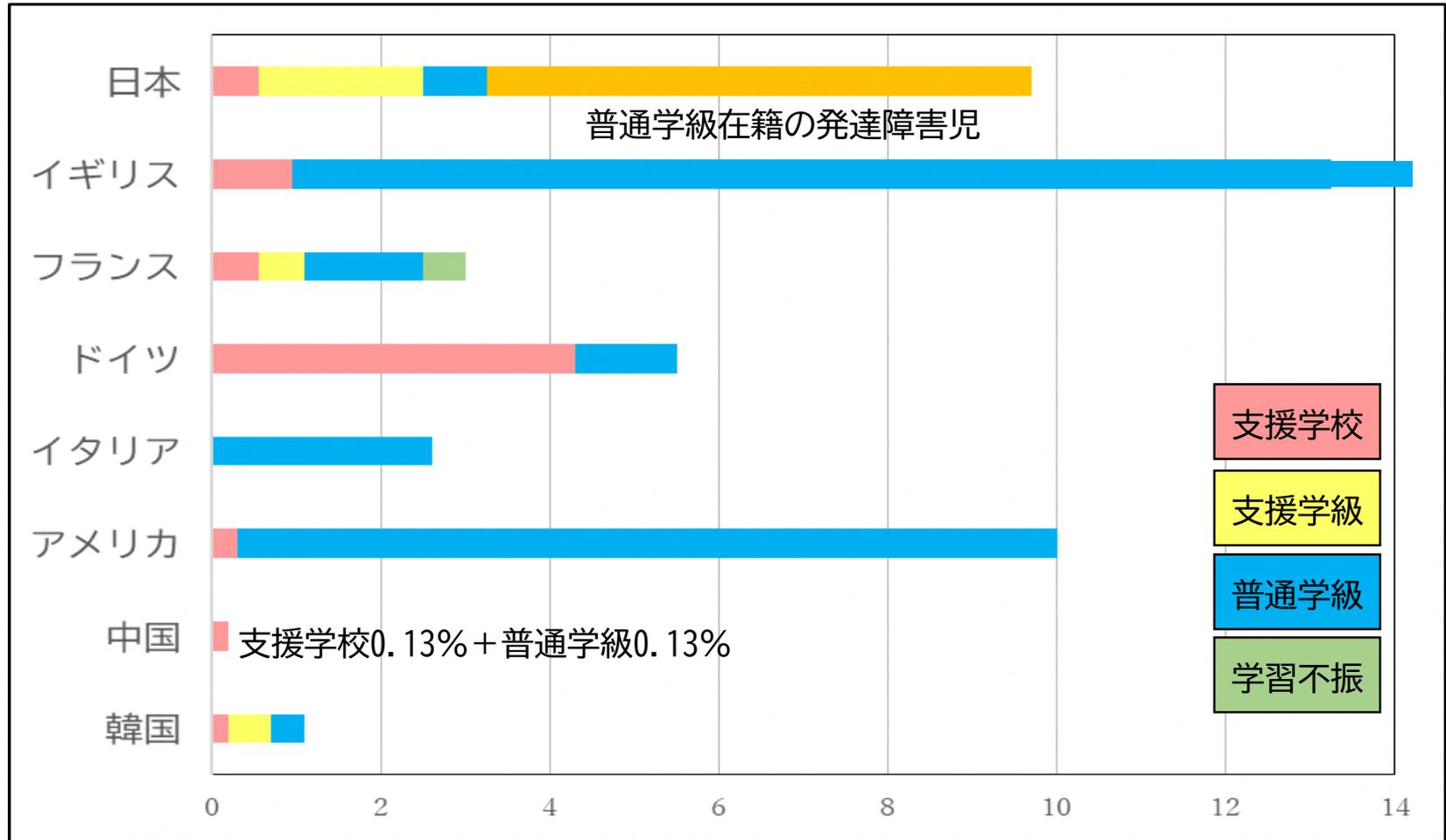
人間の多様性の尊重、精神的・身体的な能力を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加するとの目的の下、障がいのある者とない者が共に教育を受ける仕組みであり、障がいのある者が教育制度一般 (general education system) から排除されないこと、自己の生活する地域において初等・中等教育の機会が与えられること、個人に必要な合理的な配慮が提供される等が必要である。

**障害児と健常児を分けないで、  
両者がともに生活し、ともに学ぶことを理念とする教育**

- ①知的障害のある生徒の後期中等教育の「在り方」の問題。
- ②軽度知的障害生徒の共生教育の可能性を今後に期待。
- ③しかし、中～重度の生徒の対応は議論されていない(人、もの、金)。
- ④特別支援教育が始まってすでに15年を越えたが…。

# 前回話題提供の後書き

## 【各国の特別支援教育の状況】



国総研ジャーナル第4号のデータを引用